

## 編集後記

伝統ある「臨床神経学」の編集委員を昨年より拝命し、身が引き締まる思いを致しております。どうぞよろしくお願ひいたします。振り返りますと、私自身、教室の仲間とともに「臨床神経学」に論文を投稿して参りました。最初は印象に残った症例について指導医から論文の執筆や図の作成の基本を教えてもらいながら見様見真似で書いたこと、査読者のコメントへの対応は苦勞することもありましたが、教育的できめ細やかな指摘のおかげで論文が完成されたことが懐かしく思い出されます。また、論文が読者の多い「臨床神経学」に掲載されますと先輩の先生方から感想なども貰えてうれしくなり、次の論文執筆へのモチベーション、さらには自分自身の診療の励みにもなりました。

「臨床神経学」にはエキスパートの先生方の総説や原著論文もありますが、臨床で有用な症例報告が充実していることが特徴と言えます。実際の臨床で難しい症例に遭遇して診断や治療について論文を検索した時に「臨床神経学」の症例報告がヒットすることがしばしばあると思いますし、まずは「臨床神経学」サイトから検索を始めるという

方も多いのではないかと思います。この臨床で有用な論文には読者である他の医師に役立つ情報が示されています。具体的にはこれまで知られていなかった症候や経過、診断（診断手技、鑑別）、治療（新しい治療、有害事象）、他の疾患との関連性などについて臨床に役に立つ新規知見がしっかり示されていることが重要になります。症例報告を書くきっかけとしては、めずらしい症例を経験した、診断や治療に苦勞した、科学的に示唆に富む新しい知見を得た、印象に残ったので論文として残したいなど様々あると思いますが、臨床の有用性は何か？ 新規知見はあるか？ そのようなポイントを1つか2つアピールし考察して症例報告を執筆していただくと貴重で質の高い論文になります。

臨床的に有用な症例報告をみなさまにお届けすることが「臨床神経学」の役割です。若い先生の論文執筆を応援できるように建設的なコメントもして参りますので、多くの先生方からの御投稿をお待ちしております。

(中嶋秀人)

## 〈編集委員〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子		
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬		
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利	櫻井 圭太	柴田 護
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫	中嶋 秀人	新野 正明

「臨床神経学」	第62巻 第8号	2022年8月1日発行	
編集者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発行者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		西山 和利
印刷所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>